

溶銑予備処理小特集号 の発行にあたって

常務取締役
鉄鋼企画本部長
鉄鋼技術本部長 永井 潤



我国の鉄鋼業は二度にわたるオイルショックを抜本的省エネルギーで克服し、さらに円高によるニーズ諸国の追い上げを生産設備集約など非常措置の断行により乗り切ってきました。これらの試練を通して、鉄鋼本業の強化策として各社は戦略の変換を図りつつあります。その戦略は、量的拡大指向から脱却し、一つは顧客の多様化ならびに短納期化する要求に対応できる FMS 化（フレキシブル・マニュファクチャリング・システム化）を推進することであり、他方は高付加価値化に向けてファインスチール化を図って行くこ

とです。このとりま期占に立つ時 製鋼精錬部門における課題は以下のように要約されま

す。

まず、前者のターゲットに対しては、下工程である熱間圧延等と同期化できる工程能力を確立することに尽きると考えます。当社では、溶鋼の品質、歩留等に関して、バラツキが大きい LD 転炉の Q-BOP 化や上底吹化をいち早く進めてきました。さらに、転炉精錬